

各務原市まちづくり活動助成金

令和5年度取材レポート NO.4

市ウェブサイトにも掲載しています

各務原 まちづくり



この取材レポートでは、各務原市まちづくり活動助成金 令和5年度交付事業の活動の様子をご紹介します。

令和5年度交付事業…<スタート助成>1年目:2事業 <まちづくり助成>1年目:6事業、2年目:3事業 計11事業が実施中です。

事業名: 住民が取組む避難所立上げ手順確認事業

団体名: 八木山自主防災会

<まちづくり助成1年目>

事業概要

住民が取組む避難所開設模擬訓練
(災害発生直後の、初動期対応訓練)

10月8日(日)10:00~12:00、八木山小学校の体育館にて、避難所開設模擬訓練が行われ、メンバー13人と他地域の防災推進員3人、地域住民の応援者5人が参加しました。鵜沼中学校を通してボランティア募集を行い、生徒1人と保護者1人の協力を得ることもできました。訓練には岐阜大学特任准教授の村岡治道さんが立ち合いました。

予算

事業費総額: 457,918 円

交付決定額: 300,000 円

避難者の受け入れ訓練で、参加者達は事前に決めた「避難所の間取り」に沿って避難所を開設。受付は地区ごとに行いました。受付では予め避難者役に設定した「ペット連れ」「妊娠中」「集団生活が難しく車で生活希望」など個々の状況を把握し案内しました。受け入れ訓練後は、防災対策課職員からマンホールトイレの設置・維持管理や、通信手段の確保、食料の備蓄などの説明がありました。

主な経費

避難所開設事業指導謝礼、防災士謝礼、搬入搬出謝礼、傷害保険料、消耗品、避難所マット、ラベルライター、養生シート、レンタカー(トラック)

終了後、メンバーたちは、模擬訓練で気付いたことや改善点を話し合いました。村岡准教授は、「若い人たちにも興味をもってもらえるような工夫をして、参加住民を増やしていくことが課題です。ぜひ、八木山の取り組みや教訓を他の地域にもおすそ分けしていただき、ブラッシュアップのきっかけにしてください。」と話されました。



事業名: 地域の伝統芸能和太鼓の継承と地元愛の育成事業

団体名: 各務原太鼓保存会

<まちづくり助成1年目>

事業概要

日本の伝統芸能である和太鼓の文化を絶やさないよう、和太鼓の普及活動を行う。若い方も興味を持てるようなエンターテインメント性のある新しい曲を市民の皆様と作り上げる。

10月14日(土)12:00~13:00、コミュニティ炉端にて、各務原太鼓保存会が、第4回目の和太鼓作曲ワークショップを開催し、3歳~小学4年生の子ども9人が参加しました。

予算

事業費総額: 479,428 円

交付決定額: 300,000 円

参加者は、大小様々な種類の太鼓の中から好きな太鼓を選び、お手本に合わせて基本的な叩き方を練習。後半は、みんなで楽譜を組み合わせて作曲しました。団体は、予めいろいろなリズムの書かれた紙から2枚ずつ選んで並べると1曲になるように工夫しました。

主な経費

チラシ印刷費、練習会場費、太鼓の皮の張替え、ワイヤレスマイクロホン タイピン型

参加者達は、早川さんの「リズムを組み合わせるといろんな曲ができます。簡単なリズムと難しいリズムを組み合わせると作ってみましょう。」と言うアドバイスを受け、緩急をつけた演奏しやすい曲を作り演奏することができました。初心者にもわかりやすく、「上手にできたね。みんなすごいね。」とたくさん褒められるので、参加者は楽しんで演奏している様子でした。



各務原市 市長公室 まちづくり推進課

☎ 058-383-1997

✉ machidukuri@city.kakamigahara.gifu.jp

事業名：防災連絡協議会事業

団体名：川島防災クラブ

<スタート助成1年目>

事業概要

各地域を代表する防災委員にて構成する「防災連絡協議会」が設置出来る状況を整える。

予算

事業費総額：191,638円

交付決定額：100,000円

主な経費

防災備蓄食料アルファ米、煮炊き用大鍋・蓋・竈、A4用紙、封筒、プリンタインク、郵送料、ボランティア保険料

10月28日(土)10:00～16:00 川島ライフデザインセンターのクラブ・サークル発表会において、川島防災クラブが展示・発表の機会を得て「みんなで防災！」を開催しました。

展示では、団体がこれまでに調査した危険個所の地図や、川島連合自治会内の防災備品の設置状況一覧を展示。水害DVDの上映など、動画でも災害への備えの必要性について知る機会を提供されました。また、防災クイズやアンケートも用意し、参加した家族に粗品を進呈するなどして参加を促しました。ブースは風船装飾により子どもたちの目につくように工夫され、親子が積極的に参加する様子が見られました。

ワークショップは、非常食の試食体験や、災害・避難カード作りを行いました。非常食の体験では、アルファ米に湯を注ぎ、待つ間の15分間には防災士資格を持つ脇田さん・水野さんの主導で、日頃の備えについて話す場が持たれました。「ご自宅で、避難袋は用意されていますか。」という問いに対し、参加者が自身の備えを振り返りました。水野さんは参加者に対し、「アルミフィルムとダンボールがあれば温かく過ごすことができますよ。」「最近はレトルトなども充実していて期限も長いので、日常に取り入れて、使ったら買う、という習慣をつけるといいですよ。」などの具体的なアドバイスを行っていました。



事業名：ミニSLによる三世代交流再開事業

団体名：ミニSL各務原

<まちづくり助成2年目>

事業概要

市内の地域三世代交流を目的に、市内の保育園・幼稚園児にミニSLに楽しく乗車していただく事業。

予算

事業費総額：524,350円

交付決定額：150,000円

主な経費

SL本体、モーター、制御装置、車輪、広告看板制作費、ユニフォーム代、保険料、チラシ印刷費

10月28日(土)10:00～15:00 川島ライフデザインセンターのクラブ・サークル発表会で、ミニSL各務原も発表団体の一つとして、来場者に対してミニSL乗車体験を提供しました。

来場者は地元住民が多く、団体メンバーと普段から自治会や子ども会などで関係がある親子は、乗車時にも近況を報告し合うなど、コミュニケーションの機会にされていました。SLの蒸気に触ろうとする子どもに注意喚起が必要となる場面もありましたが、保護者は「近くで蒸気や煙に触れる機会はあまりない。蒸気が熱いということを知る機会になってよかった。」と体験により子どもたちが得られた学びを喜んでいました。



11月12日(日)10:00～15:00には、河跡湖公園でサクラビマルシェが主催する「おとぎの森 de サクラビ marche' VOL.3」に協力し、サクラビマルシェ内での三世代交流の場を提供しました。子連れの保護者は、「こうしたマルシェでは子どもの楽しめる場が少なくなる傾向があるので、子どもが喜ぶ場があり、家族みんなが楽しいと思えることが嬉しい。」と話していました。



事業名: いのちのつながりフェス事業

団体名: 性教育団体「いのちの授業」ここいく

<まちづくり助成 1 年目>

事業概要

フェスティバルを通して
一人一人違って大丈夫、自分らしく
生きていいこと
いのちのつながりを感じ、楽しく性
や人権を考えるきっかけをつくる

予算

事業費総額: 578,313 円

交付決定額: 300,000 円

主な経費

たまっ子座出演料、旅費、チラシ印刷、チケット・看板製作費、ブルーシート、養生テープ、事務用品、体育館使用料、公園使用料・占有料、チラシデザイン料、舞台設営費

10 月 28 日(土)および 11 月 4 日(土)、性教育団体「いのちの授業」ここいくによるいのちのつながりフェスが開催されました。

10 月 28 日(土)18:00~20:00 は、桜体育館において太鼓演奏を行うたまっ子座と、その子どもロックバンド Baby boom のライブと、「いのちの樹形図づくり」が行われました。

ライブは、来場者に観覧無料で提供。「ラッキーガール」という曲では、自分が自分として生を受けたこと自体がラッキーであるという、作曲者自身がいのちの授業を受けて得た視点を明るい旋律に乗せて伝えられました。

ライブの後には、団体メンバーが「いのちのまつり」という絵本の群読を行い、ひとりの命に至るまでに関係する命のつながりを示す「いのちの樹形図」を説明しました。来場者は、用意された紙に顔を書き、7 世代前(江戸時代)まで命を遡ってできる樹形図を手分けして制作しました。

1⇒2⇒4⇒8⇒16⇒32⇒64⇒128 と合計 255 人の命をつなぎ合わせ、その大きさを感じました。



11 月 4 日(土)10:00~15:00 は、市民公園においてオーガニックマルシェと「いのちの授業」が行われました。

当初、10 月 15 日(日)の開催を予定していた「いのちの授業」でしたが、10 月 15 日の天候不順により、延期しての開催でした。いのちの始まりのお話、出産のお話、成長する体の仕組みのお話、性の多様性と心のお話、食育のお話の5つの「いのちの授業」が設けられ、各ブース 7 回の授業を 20 分ずつ同時多発的に行いました。事前予約を行った方を中心に、未就学児から大人までの幅広い参加者が参加しました。

「いのちの授業」の参加者にはスタンプラリーの用紙が配られ、3つ以上のブースで授業を受けた参加者にはプレゼントも用意されました。各ブースでは卵生と胎生、出産の方法、性器の呼び方や二次性徴、受精について明るく正しく学ぶ機会が設けられ、性には多様性があることや、健やかに成長する為に食の安全性を気に掛ける必要があることなども含め、「生きること」を伝える「いのちの授業」を行いました。

「いのちの事業」ブースの近くでは、オーガニックマルシェが開催され、身体や環境に配慮した商品を扱う 13 のブースが場を盛り上げました。マルシェを楽しんだ親子や、公園に遊びに来た方々が、「何をやっているのだろう」と授業を後ろから覗いて興味を持つなど、屋外ならではの広がりが見られました。



各務原市まちづくり活動助成金とは？

「まちづくり活動」とは、広く市民に開かれ、地域課題の解決に向けた取り組みを行う、自主的かつ公益的な活動をいいます。活動によって、地域が元気になり、活動者自身もその効果を実感できる取り組みを想定しています。

各務原市では、この「まちづくり活動」にかかる費用の一部を助成※しています。

※令和6年度事業の応募受付は10月10日～12月27日です。詳細は、まちづくり推進課へお尋ねください。

交付事業は
このマークが目印です。



各務原 まちづくり活動助成金



事業名：大規模災害時における避難行動要支援者に対する避難支援訓練事業

団体名：鵜沼南町自主防災組織

<まちづくり助成2年目>

事業概要

災害時に地域で初動対応できる体制の構築と日頃からの災害弱者に対する支援を継続する。本応募事業では大規模災害時の一時避難に際して避難行動要支援者を実際に搬送できる力量を身に付ける事を目指す。

予算

事業費総額：156,182円

交付決定額：104,000円

主な経費

折りたたみ式アルミリヤカー、簡易担架、ソフト担架、ヘルメット27個

11月4日(土) 10:00～12:10、鵜沼南町会館において、鵜沼南町自主防災組織の避難支援訓練と役員会が開催され、15人が参加しました。

避難支援訓練には、東部方面消防署みどり坂出張所の職員3人が立ち合い、担架を使う搬送技術や毛布などを担架の代わりに使う方法などの指導に当たりました。

訓練は、リヤカーを組み立てることから始め、簡易担架を使った搬送訓練を行いました。担架で搬送した要支援者をリヤカーに乗せてみたところ、寝た状態では足が大きくはみ出し、安定して運ぶための方法が話し合われました。

ソフト担架を使った搬送では、室内階段と非常階段を下りてみて、メンバーが搬送するのは厳しいことがわかりました。消防署の職員は、「皆さんだけで搬送するのは体力的に難しいと思います。是非、若い人を巻き込んでください。皆さんは、知恵と指示を出す役割をお願いします。今日の訓練で出た課題を検討していただき、今後も積極的な訓練を行ってください。」と講評しました。



事業名：おいしく食べていっぱい遊ぼう事業

団体名：結愛ポート

<まちづくり助成1年目>

事業概要

身体にも心にも美味しく優しいものを「美味しい！」と食べて、やりたいことを「楽しい！」と思う存分やる。そんな当たり前のことを経験させてあげられる日をつくります。

予算

事業費総額：181,500円

交付決定額：110,000円

主な経費

講師謝礼、食材費、ワークショップ材料費、消耗品、会場費、テント、保険料、チラシデザイン料・印刷代

11月26日(土)10時～15時、総合福祉会館において、「にこにこフェス」が開催されました。「自然物」「紙工作」「毛糸・布」「スライムづくり」「折り紙」「バルーンアート」「べんがら染め」「防災クッキング」の8つのブースが用意され、団体メンバーや他団体からの協力者も含め多数の大人と子どもがスタッフとなり、参加者の活動を見守りました。スタッフの子どもたちは、当日の受付などのほか、会場ポスターの絵を描くなど事前準備から関わりました。

各ブースでは必要最低限の情報提供に留めることで、「自分のやりたいことを自分で決めて思い切り楽しむ場」を意識され、子どもたちはそれらを自由に組み合わせて楽しみました。防災クッキングでは、炊飯と蒸しパン作りを提供する傍ら、けんちん汁を用意。参加者の親子はお腹を満たして再び遊び、充実した一日を過ごしました。

決まりごとの少なさに戸惑う参加者もありましたが、代表の各務さんは、「決められたことをこなすだけでは、子どもの体験にならないので、この場を用意できてよかったです。」と力強く話しました。



以上の内容は、事務局の取材や団体からのヒアリングをもとに作成しました。

(まちづくり活動助成金 令和5年度事業 取材レポートNO.4 / 各務原市 市長公室 まちづくり推進課 058-383-1997 / 令和5年12月発行)